〔書言字考節用集二時候〕太郎月本朝俗、斥ニ正月ニ云レ爾、睦月又作ニ睦月ニ、正月也、新春親族相依娯樂遊宴、故云レ爾、正月夏以レ寅、殷以レ丑、周以レ子、秦以レ亥、漢武大初元以來、改用ニ夏正建レ寅月ニ、

〔二中歴五歳時〕月倭名　正月俗説云、正月元三日、貴賤往來致ニ拜禮ニ、各結ニ和親ニ、故稱ニ此月ニ爲ニ親月ニ、今所レ謂ムツキハ、是ムツビヅキノ訛也、

〔奥義抄上末物異名〕正月、たかき、いやしき、ゆき、たるがゆゑに、むつびづきといへるをあやまれる也、

〔世諺問答正月〕問て云、まづ正月をむ月と申侍るは、いかなるいはれぞや、　答、正月はとしの始の祝事をして、しる人なるはたがひに行かよひ、いよ〳〵ゑたしみむつぶるわざをし侍るによりて、この月をむつび月となづけ侍り、そのこと葉を略して、む月といふとぞきゝをよびし、

〔東雅一天文〕ムツキといふ事は、ムツビヅキと云也、上古の語に、スメムツ神などいふ事はあれど、ムとのみいひ、睦の義ありとも見えず、又ムツビといひ、ツキと云、ツといふことばのかさなれる故に、ひとつのツといふことばに、ふたつのツとゝいふことばは、こもれりなどもいふべけれど、それもまたゑかるべしとも思はれず、

〔語意考〕一月を牟月といふは、毛登都月てふ事也、其毛都の約は牟なれば牟かいふ、

〔倭訓栞前編三十一〕むつき　正月をいふ、親ましてふ月なればいふ、又生月の義、春陽發生の初なれば、かく名くる成べし、○中略　蝦夷に此月をとひたんねといふ、日ながしといふ事也、

〔古今要覽稿時令〕むつき正月　むつきは正月の和名なり、日本書紀神武紀四十有二年壬寅春正月とみえたるぞ、正月をムツキとよみし初なる、武都紀多知ハルノキタラバ波流能吉多良婆と萬葉集みえ、二條の后のとう宮のみやすむ所ときこえける時、むつき三日おまへにめしてと古今和歌集春歌上見え、むつきたつしるしとてやはいつしかとよもの山邊にかすみ立らんと躬恒秘藏抄見え、正月むつき、高き賤き、ゆきゝたる故に、むつみ月といふと清輔奥義抄いひしは、はじめてむつきの義を解に似たり、正月むつきと八雲御抄みえ、正月、睦月、睦或作睦、新春親類相依娯樂遊宴、故云睦月也と下學集云へるも、奥義抄